

## 2.3. カシノナガキクイムシ発生消長や分布の把握

近年国内で拡大しているシイ・カシ類萎凋病（ナラ枯れ）は、病原菌、媒介昆虫ともに沖縄に生息していることが確認されてはいるものの、被害は顕在化していない。このような中、先行事業の「沖縄らしいみどりを守ろう事業（平成 24 年度～平成 28 年度実施）」において、シイ・カシ林の林齢とその分布よりハザードマップを作成し防除対策を検討したが、やんばる地域や西表島では大径木化の進むシイ・カシ林が広く分布していることから、監視体制のあり方が課題として挙げられた。

そこで本事業では、県内のカシノナガキクイムシの調査方法を検討するとともに、生息分布、発生消長を把握し、地域の状況に応じた戦略的防除方針の策定に資することを目的とする。

### (1) 方法の検討

平成 29～30 年度は分布把握を、平成 30 年度以降は、概査の結果より調査地点を絞込み、より詳しい分布調査に展開を図る予定である。

調査を行うにあたって、平成 29 年 11 月 14 日に森林総合研究所九州支所の後藤秀章氏に聞き取り調査を行い、後藤氏の指導に基づいた以下の方法で調査を行った。

#### 1) 分布調査

- ・シイ・カシ類の分布している林内に、カシノナガキクイムシ専用のトラップを設置し、カシノナガキクイムシの捕獲に努めた（写真）。
- ・概査として、全体的な分布把握とフェロモンの効用を確認することを目的とし、沖縄島北部を 9 分割し、分けた範囲それぞれに、ハザードマップを基に調査地を 1 箇所設定した（図Ⅱ.2.1-24 参照）。
- ・沖縄本島のカシノナガキクイムシに既存のフェロモンが有効なのかを確認するため、1 地点 4 基のトラップをそれぞれ 20m 以上離して設置し、（カシナガコール）× 2 基、（エチルアルコールのみ）× 2 基を 1 週間ごとに入れ替えて確認を行った。
- ・トラップを、1 週間に 1 度回収して捕獲されたカシノナガキクイムシの個体数を数えた。
- ・フェロモンの効果を確認し、エチルアルコールのみにするかどうかを判断する。



カシノナガキクイムシ用トラップ  
貴重種の混獲を防ぐよう金網を施した。

#### 【使用した誘引剤とトラップ】

- ・誘引剤（カシナガコール、エチルアルコール）  
農林水産省登録 登録番号：第 23065 号  
有効成分：ケルキボルア 78.0%（カシナガコール）  
取扱会社名：サンケイ化学株式会社
- ・トラップ  
器材名：昆虫誘因器（透明）  
取扱会社名：サンケイ化学株式会社



カシノナガキクイムシ用トラップ(1)  
誘引剤：カシナガコール+エタノール



カシノナガキクイムシ用トラップ(2)  
誘引剤：エタノールのみ

調査地点は以下のとおりである。位置図は図Ⅱ.2.1-24に示す。

No.1	県有林 47 林班
No.2	県有林 75 林班
No.3	村有林 77 林班
No.4	名護市有林 2 林班
No.5	県有林 66 林班
No.6	村有林 4 林班
No.7	名護市有林 10 林班
No.8	名護市有林 21 林班
No.9	名護市有林 1 林班

なお、各調査地点に関しては、それぞれ沖縄県北部農林水産振興センター（調査地点No.1, 2, 5）、国頭村（調査地点No.3, 6）、名護市（調査地点No.4, 7, 8, 9）に許可を得てトラップを設置した。

## 2) 発生活消長調査

- ・ 松枯れ調査（ヘリコプターによる調査）で確認された調査結果をもとに、ブナ科樹木の枯れを確認して、カシノナガキクイムシの発生調査を行う。
- ・ 分布調査（概査）結果から、より発生活消長を把握しやすい調査地点を決定する。
- ・ 調査は成虫を対象に発生活消長を把握する。
- ・ 木に潜っている可能性があるのもチェックする。
- ・ 調査ルートを設定して、発生の多い梅雨明けから7月頃は確実に抑える。
- ・ 調査は1年間以上継続して実施する。
- ・ 分布調査と同様にカシノナガキクイムシのトラップをシイ・カシ林の林縁に設置し、2週間に1度捕獲されたカシノナガキクイムシの個体数を数える。
- ・ 並行して、生活史を把握するための飼育環境実験も検討する。

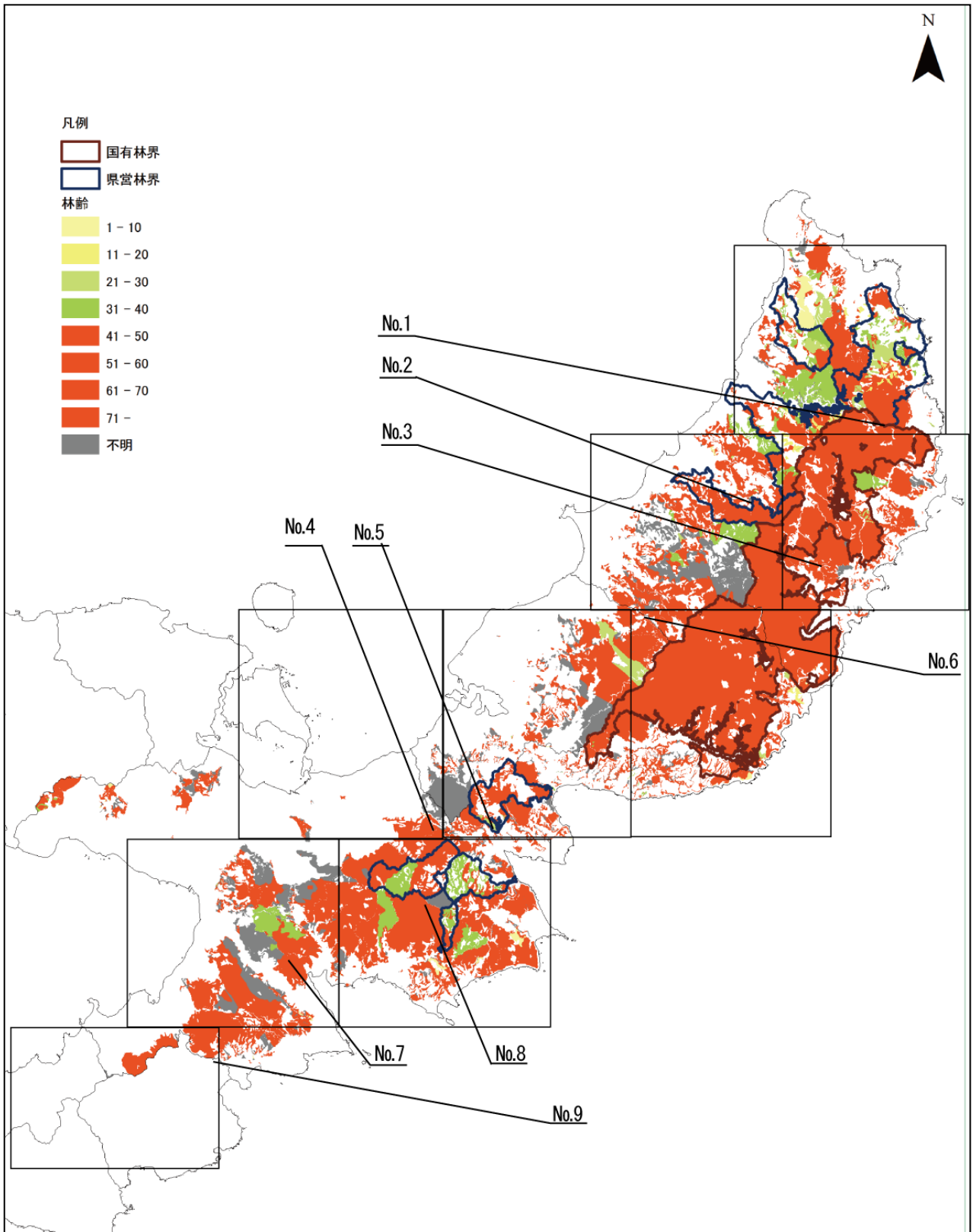


图 II . 2 . 3-1 調査地点

## (2) 調査結果

調査は、以下の日程で行った。

第1回目：平成30年2月26日（設置）

第2回目：平成30年3月5日（回収1回目）

第3回目：平成30年3月12日（回収2回目）

第4回目：平成30年3月19日（回収3回目）

平成30年3月19日の時点で捕獲された昆虫類については現在同定中である。平成30年2月26日に設置した調査地点No.1でナガキクイムシ科の一種が1個体確認されているが、その他の地点では確認されなかった。



ナガキクイムシ科の一種  
調査地点No.1で捕獲された。

## (3) とりまとめ

- ・ 今後、詳細な同定を行い森林総合研究所の後藤氏に確認を行ってデータを作成する。
- ・ 分布調査結果は分布図（地図）としてとりまとめる。
- ・ 効果的な防除方法に資するよう、発生消長調査は経時的にとりまとめる。